

事業番号	0	6	4
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	子ども会活動支援事業				担当部	こども未来部					
事業期間	昭和63年度以前 ~ 令和2年度以降				担当課	こども政策課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	13	展開方向	2							
予算区分	一般会計	款	03 民生費	項	03	目	01	大	04	中	01

2. 実施状況

子ども会活動の活性化を図るため、ジュニアリーダーの養成講座の開催、世話人の研修会の開催、単位子ども会への講師派遣のほか、市子ども会連絡協議会へ補助金を給付している。また、市内児童館と共催でこまキッズフェスタを開催し、会場内で市子連の周知を行っている。

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	3,068	2,626	2,537	2,496
			国・県支出金	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
		計(A)	千円	3,068	2,626	2,537	2,496	
	対前年比	%	-	85.6%	96.6%	98.4%		
	(当初)予算額	千円	3,918	3,046	2,866	2,866	2,766	
人件費	正職員	人	0	0	0	0		
	正職員(平均人件費)	千円	0	0	0	0		
	その他職員	人	1	1	1	1		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	1,076	1,095	1,104	1,114		
	計(B)	千円	1,076	1,095	1,104	1,114		
事業費合計(C=A+B)		千円	4,144	3,721	3,641	3,610		
指標	成果指標	子ども会に加入する児童の人数	目標	3,286	2,988	2,771	2,524	2,450
			実績	2,988	2,771	2,524	2,450	
	活動指標	単子への講師派遣回数	目標	28	31	23	25	24
			実績	31	23	25	24	
			目標					
			実績					
	@事業費	受益者数(a)	人	2,988	2,771	2,524	2,450	
		受益者あたり事業費(b=C/a)	円	1,387	1,343	1,443	1,474	

	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
診断結果	<p>市子連に加入する団体数が年々減少しており、少子化と併せて、成果指標の「子ども会に加入する児童の人数」は減少している。 また、子ども会連絡協議会補助金についても、加入団体の減少により、補助額も減額傾向にある。</p> <p>※加入団体数：H27年度 44団体、H28年度 40団体、H29年度 37団体、H30年度 36団体</p> <p>R元年7月に各区へ対し子ども会の活動状況について調査を行った。 129区に対し、調査票を送り、125区から回答があった。その結果、市内には98団体の子ども会があり、そのうち市子連に加入しているのは、35団体で市子連の加入率は35.7%であった。 市子連に加入している団体からは、「安全共済に加入できること、講師・ジュニアリーダーの派遣が市子連加入のメリットだと感じている。」といった意見がある一方で、「世話人会が負担。たくさん子どもたちの引率や面倒をみることへの責任の重さと不安がある。子どもの数が少なくなってきており、存続ができない。」といったような意見もあり、子ども会を運営する苦勞が窺えた。</p> <p>また、市子連に加入していない団体からは、「市子連がどういうものか知らない。役員がまわってくるので入りたくない。子どもが少なく、子ども会自体の存続が危ういため、市子連に加入できない。地区内で活動しており、市子連に加入しなくても困っていることはない。」といった否定的な意見のほか、「市からの助成金があればもっと楽しい行事が企画できて参加者が増えるのではないか」と思っている。学校の社会見学のように、公的な交通手段を利用できるとよい。」といったような前向きな意見もあった。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性 削減額・対象	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
評価結果	<p>市子連に役員を派遣するのが重荷となって、今後も、市子連から脱会する子ども会が増えていくことが予想されるが、世話人会の開催回数を減らし、市子連自体の運営方法の見直しや、こども未来館で行う行事に子ども会活動として参加してもらおうなど、子ども会役員の負担軽減を図っていく。</p>				